

5月25日

## 司祭教会博士ビード

Beda Venerabilis

(673頃～735)

～英国歴史記述の父祖～

<人名事典などでの別表記：ベータ>

ビードはノーサンブリアのアングロ・サクソン王国に生まれました。彼の両親は信仰深く、7才のときにはウェアマスにあるベネディクト会の聖ペテロ・聖パウロ合同修道院に入れます。そこでビードは、ベネディクト会士から教育を受けることによって、才能を伸ばしていきます。彼は古代のキリスト教だけではなく、キリスト教以外の著作集にいたるまで学び、幅広く、そして深い知識を吸収していきます。

681年ごろにはジャローの修道院に移り、19歳で助祭となります。さらに11年間哲学と神学を学んだのち、司祭となり、なおも研究を続けて神学博士の学位を得ます。そして、死後100年ほどたって尊師 (Venerabilis) という称号を与えられます。

彼は生涯にわたり、祈りと研究・教授活動に専念しました。しかし、ほかの修道士のように、農業や酪農、台所仕事もすべておこなっていきます。また初代教父が書いた本に注釈をつけたり、聖書のほとんどの書の注解書も書いたりしました。さらに物理や数学、気象学や天文、植物、教会史、詩学、また聖人伝記学などにいたるまで幅広い知識を用いて、多くの黙想書や神学書、歴史書をあらわし



「ヴェネラピリス」

ニュルンベルク年代記より

ていきます。

その博学ぶりはイギリス全土に広まっていき、司教のみならず国王にいたるまで、彼の意見を聞きにくるほどでした。また731年に書かれた「イギリス教会史」はイギリス初の教会史と言われ、現在も「ベータ英国国民教会史」という日本語翻訳を読むことができます。

しかし、絶えまない研究活動によって彼の体力は消耗し、胃の障害や足のむくみ、呼吸困難に早くから悩まされていました。それでも神学生に対する講義をやめることはありませんでした。

そして735年5月26日、「栄光は、父と子と聖霊に」と唱えながら、彼は63年の生涯を閉じます。生前の彼は「修道生活の実務以外に、私の楽しみは学ぶこと、教えること、書くことである」と言っていたそうです。

<特禱>

**全能の神よ、あなたは主のしもべ、司祭教会博士ビードの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。**

アーメン